

Ⅲ. 3. その他の外部資金

○奨学寄附金

<言語文化専攻>

該当なし

<言語社会専攻>

対象教員	寄付団体名	研究課題	金額	研究期間
當野 能之 講師	日本言語学会	言語の多様性に関する啓蒙・ 教育プロジェクト	500,000 円	2019.4.1~ 2020.3.31
林 初梅 准教授	台北駐大阪経済文化 弁事処	台湾研究講座（台湾研究及び 言語文化課程発展プロジェクト）	7,421,400 円	2019.4.1~ 2020.3.31
宮下 遼 准教授	サントリー文化財 団	学問の未来を拓く	250,000 円	2019.8.1~ 2021.7.31

○共同研究

<言語文化専攻>

該当なし

<言語社会専攻／日本語・日本文化専攻>

該当なし

○受託研究

<言語文化専攻>

該当なし

<言語社会専攻>

受入教員	相手先	研究課題	金額	研究期間
米田 信子 教授	独立行政法人 日本学術振興会	言語学分野に関する学術研究 動向 ーアフリカ諸語研究の現状と 展開ー	1,560,000 円	2019.4.1 ~ 2020.3.31

(研究代表) 渡邊 克昭 教授 計 12名	一般財団法人 日本生涯学習総合 研究所	大学英語教育における CEFR の活用—ESP と 4 技能育成の 統合	1,000,000 円	2019.10.1 ~ 2020.3.31
(研究代表) 藤原 克美 教授 計 3名	ベオグラード大学	日本語母語話者へのセルビア 語教育の研究	605,670 円	2019.10.1 ~ 2020.9.30

○受託事業研究

<言語文化専攻>

外国人研究者招へい事業（外国人招へい研究者）

対象教員	相手先	研究課題	金額	招へい期間
田村 幸誠 准教授	独立行政法人 日本学術振興会	能格言語と体言化理論	150,000 円	2019.10.16~ 2019.12.14

<言語社会専攻>

受入教員	相手先	事業名	金額	研究期間
(研究代表) 横井 幸子 准教授	文部科学省 初等中等教育局	グローバル化に対応した外国 語教育推進事業	1,894,988 円	2019.5.27~ 2020.3.31
(受入窓口) 箕面事務室 教務係	独立行政法人 国際交流基金	大学連携日本語パートナーズ 派遣プログラム (①チューラー ロンコーン大学,②チェンマイ 大学)	1,442,474 円 (①1,000,840 円 ②441,634 円)	① 2019.8.1 ~ 2020.7.30 ② 2019.10.1 ~2020.3.30

○日本学術振興会特別研究員

<言語文化専攻>

氏名	助成団体	助成名称	申請課題	助成金等
植田 尚樹 PD	日本学術振興会	平成 29 年度日本学 術振興会特別研究員	東部ユーラシア諸言語の動 態的音韻研究—音声産出・ 知覚実験を軸に—	362,000 円/月
井原 駿 DC1	日本学術振興会	平成 29 年度日本学 術振興会特別研究員	組み合わせ範疇文法 (CCG) を用いた日本語発話形式処 理システムの構築	200,000 円/月
陳 曦 PD	日本学術振興会	平成 30 年度日本学 術振興会特別研究員	日本語複合語のアクセント 融合・非融合に関する総合 的研究	200,000 円/月

木場 亜莉沙 DC2	日本学術振興会	平成 30 年度日本学術振興会特別研究員	ディスコースの交錯一性的少数者と民族的少数者の集合的アイデンティティ	200,000 円/月
三野 貴志 DC1	日本学術振興会	平成 30 年度日本学術振興会特別研究員	There 構文の多層的ネットワークの構築 ~構文文法の新たな枠組みを求めて~	200,000 円/月

<言語社会専攻/日本語・日本文化専攻>

氏 名	助成団体	助成名称	申請課題	助成金等
安部 麻矢 PD	日本学術振興会	平成29年度日本学術振興会特別研究員	タンザニア・マア語の2変種の社会言語学的記述研究—言語接触の視点から—	362,000 円/月
長尾 麻由季 DC2	日本学術振興会	平成31年度日本学術振興会特別研究員	トニ・モリスン文学における物質の研究—マテリアル・エコクリティシズムの観点から	200,000 円/月
平野 綾香 DC2	日本学術振興会	平成31年度日本学術振興会特別研究員	タイー・ヌン語諸方言の研究	200,000 円/月

○内地研究員

<言語文化専攻>

所属	職名	内容	指導教員	研究期間(開始)	研究期間(終了)
国立高等専門学校機構津山工業高等専門学校	准教授	計画言語運動の展開に関する史的実証研究	山下 仁 教授	2019. 4. 1	2020. 1. 31

○私学研修員

<言語文化専攻>

該当なし

○国際共同研究推進促進プログラム

<言語文化専攻>

言語と論理的思考の発達に関する研究	
研究代表者	言語文化専攻・教授 宮本 陽一
招へい研究者	Sauerland Ulrich ライプニッツ理論言語学研究所/意味論・語用論研究

	グループ/副研究所長
研究期間	平成 30 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日
研究課題の概要	本研究は、実験語用論の観点から論理的思考と選択的接続詞の依存関係ならびに、その獲得過程を明らかにする。論理的思考の発達への母語の影響を解明するために、モノリンガル（4 歳から 10 歳）、バイリンガル、第二言語学習者、第三言語学習者による選択的接続詞の獲得過程を比較検討する。

<言語社会専攻>

アジア太平洋地域の平和と安定：包括的アプローチを目指して	
研究代表者	言語社会専攻・教授 杉田 米行
招へい研究者	香港大学・講師 Teo, Vicor
研究期間	2017 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日
研究課題の概要	研究の全体構想は、アジア太平洋地域の平和と安定をいかにして築くかということ、歴史的知見を基礎にして探求するとともに、それを基に将来の展望を切り開くことである。そのために、本研究は、平成 26 年度～28 年度の国際共同研究促進プログラム「アジア太平洋地域の平和と安定：国際行動規範形成のための重層的分析」の成果を発展させる。本研究では外交・制度的・国内政治的・文化的・法的・経済的諸要因を構造的に取り込み、包括的アプローチの構築を目指す。平成 31 年度は新たに本学大学院に入学した博士前期課程・後期課程の若手研究者も加え、院生の育成にも力を入れる。また、人工知能（AI）やビッグデータが果たす役割の分析を加え、研究の幅を厚くすることを心がける。

医療保険制度が診療に与える影響（腫瘍学を中心として）：日本とインドの比較研究	
研究代表者	言語社会専攻・教授 杉田 米行
招へい研究者	ハイドラバッド工科大学・講師 Chittem, Mahati
研究期間	2018 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

研究課題の概要	<p>研究の全体構想は、医療保険制度が診療、特に診療の効果に与える影響に関して、日本とインドの比較研究をすることである。アジアの成熟した大国の代表として日本を、アジアの台頭しつつある新興国の代表としてインドを比較検討する。ガンの告知等をケーススタディとして、ヘルスケアにおける心理的要因を分析する。本研究の具体的な目的は、ヘルスケアにおける心理的要因のみならず、国ごとに異なる医療保険制度がガンの告知等にも大きな影響を及ぼしているという仮説をたて、日本とインドで比較研究をしながら、その仮説を検証することである。</p>
---------	--